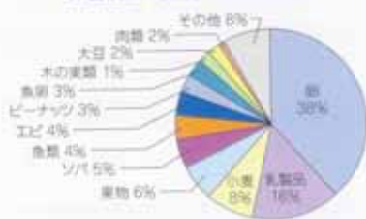


食物アレルギーの実態及び誘発物質の解明に関する研究

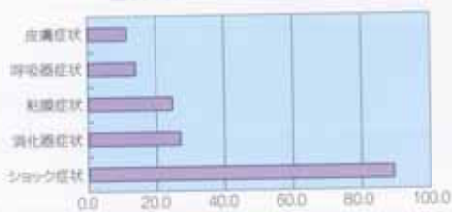
<内容>

- 平成13年度～14年度にかけて、日本アレルギー学会認定・専門・指導医および日本小児アレルギー学会会員2,012名の協力を得て、全国3,840症例を登録した。
- 2年間にわたる登録症例の追跡によると分析の結果、食物アレルギーの原因物質や症状等の実態が明らかになった。
- 研究結果に基づく本研究班の提言に基づき、平成14年4月に実施された食品衛生法の改正において、5品目（卵、乳製品、小麦、ソバ、ピーナッツ）のアレルギー物質を含む食品の表示が義務付けられ、また19品目の表示が奨励されるようになった。

原因抗原の頻度 (n=3,840)



症状の頻度 (n=3,840)



<免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業>

インフルエンザパンデミックに対する危機管理体制と国際対応に関する研究

- インフルエンザ大流行において、健康被害を最小に抑えるとともに、医療サービスと社会機能の維持を目的として、WHO等の国際的なインフルエンザ対応指針に基づき、我が国における新型インフルエンザに対する事前準備と発生時の具体的な対応・行動計画を策定する。

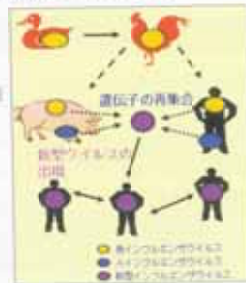
1. 事前準備体制の確立

- 新型インフルエンザ対策基本方針の改訂
- 国内外の早期検知監視体制の確立等 (ヒト、鳥、豚におけるサーベイランス体制の確立)
- 具体的な準備計画の策定

2. 新型インフルエンザ発生時の行動計画の策定

- 情報伝達体制の整備
- ワクチン開発・製造・供給体制の整備等

<新興・再興感染症研究事業>



EBM診療ガイドラインの作成支援

- 新しい医学研究成果が大量かつ頻りに公表されるなかで、現場の医師等が最新の科学的知見を適切に踏まえながら診療できるように支援が求められている。本研究事業では、このような目的のため、対象とする疾患について、可能な限り入手した国内外の文献等をEBM (Evidence-Based Medicine) の考え方に基づき評価し、推奨される治療法等を学会などが「診療ガイドライン」として作成することの支援を行っている。

- 平成15年度末までに、学術団体による研究事業の成果として、高血圧、糖尿病、心筋梗塞など20疾患の診断ガイドラインが完成している。

- 完成した診療ガイドラインやその基となった医学文献等については、平成16年度より開始される(財)日本医療機能評価機構の「医療情報サービス事業 (通称Minds)」において、インターネットを利用して、「医療従事者向け」「国民向け」に情報提供されることとなっている。

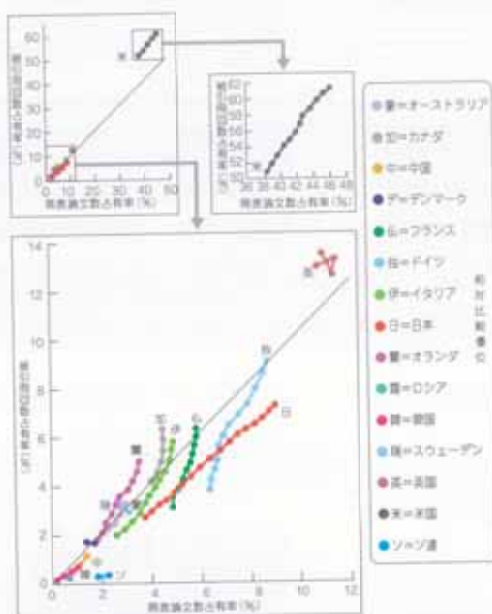
<医療技術評価総合研究事業>

保健医療分野の研究成果の評価指標に関する研究

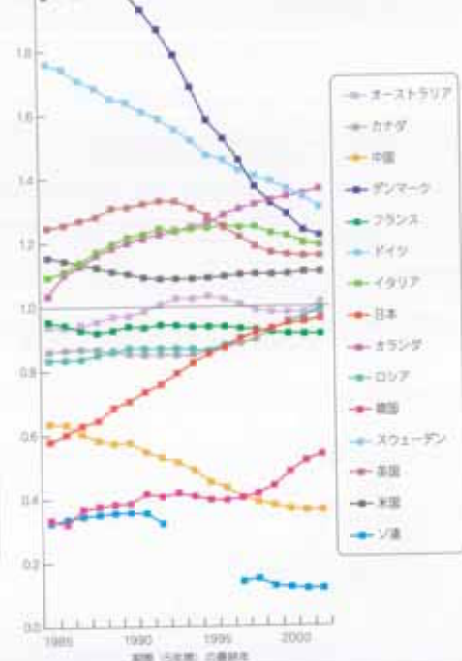
保健医療福祉分野の研究パフォーマンス評価指標の有用性に関する検討の一環として、ISIの引用分析ツールを利用し、主要国の1981～2002年までの科学文献の発表論文数および被引用回数占有率、相対被引用度、相対比較優位に関する解析を行った。科学技術政策研究所での分析方法を参考にした。

我が国の保健医療福祉分野の各指標は大きな伸びを示しており、特に臨床医学分野における相対比較優位は世界平均に近づいていることが示された。

保健医療福祉分野における主要国の論文占有率の推移



臨床医学分野における主要国の相対比較優位の推移



<厚生労働科学特別研究事業>

バイオニックナノメディシンによる 生体機能代替デバイスの開発

- ナノバイオニック治療装置は電子的かつ知的に生体調節系を代替しその異常を是正する装置である。この装置により現代医療で救命できない重症心不全の生命予後を劇的に改善した(下図)。バイオニック中枢、センサや、神経電極の超LSI化、ナノ化によって実現した。
- 超微細回路、生体内通信、生体燃料電池技術を駆使し、カテーテルにより植え込み可能なナノペースメーカーの基盤技術を開発している。
- 人工血管やステントの表面を分子レベルで修飾することにより抗血栓、抗炎症性が格段に向上したデバイスを実現した。
- 能動輸送や解毒などの生体特有の機能を人工プロテオリポソームによって実現し、夢の人工肝臓・人工腎臓に向けて開発を行っている。



<萌芽的先端医療技術推進研究事業>

老化に関する長期縦断疫学研究 —日本人の老化像の解明と老年予防の研究—

- 「老化に関する長期縦断疫学研究」(NILS-LSA)は、無作為抽出された地域住民を対象として平成9年11月より開始された老化や老年病に関する施設型の大規模調査である。
- 平成12年4月までに2267名の第1次調査を終了し、以後2年ごとに縦断的追跡調査を継続している。頭部MRI、末梢骨定量CT、腹部CT、心臓超音波断層、頸動脈エコー、写真撮影を併用した栄養調査、心理調査、運動機能調査などを含む千項目以上にも及ぶ老化関連の検査・調査を行っている。
- 老年病の遺伝素因など、400にも及ぶ学会や専門誌への成果の発表に加え、膨大な検査の結果は、日本人の老化の基礎データとしてインターネットを介して公開している。
(<http://www.nils.jp/organ/ep/index-j.html>)

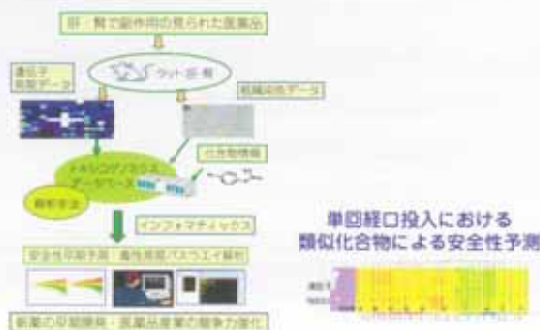
NILS-LSAの検査概要



<長寿科学総合研究>

トキシコゲノミクス手法を用いた医薬品安全性評価 予測システムの構築とその基盤に関する研究

- 最新のゲノム関連技術を駆使して、世界的レベルの本格的な毒性データベースを構築し、医薬品開発の早期に人における副作用を予測する。
- 安全性と有効性が高く世界に通じる新薬を早く患者に届けることができ、開発効率があがる。
- 申請資料のDNAチップデータの世界的な標準化に役立つ。
- 国立医薬品食品衛生研究所と企業17社の共同プロジェクトである。



<萌芽的先端医療技術推進研究事業>

産科領域における 安全対策に関する研究

- 安全にお産を迎えるため、妊産婦が自らの判断で医療機関を選択出来るよう、その基準となる「良い産院の10か条」を研究班が提唱。
- 本研究を受けて、日本産婦人科医会が協力して産科オープンシステム病院のあり方の検討を開始予定。
- 産婦人科医会では、医師の資質向上を目的とした医療事故報告制度を開始する予定(16年度)。



朝日新聞 平成十六年二月二十三日

<医療技術評価総合研究事業>

肝炎患者(キャリア)の実態把握と 標準的治療法の確立・普及

- 日本赤十字社(日赤)の協力を得て、HCV抗体陽性率およびHBs抗原陽性率(HBVキャリア率)を検討したところ、地域、性、年齢階層別の特徴が明らかとなった。
- C型慢性肝炎に対する治療法の標準化を確立し新たなガイドラインを作成するとともに、全国規模での啓発活動を行い、標準化された治療法の活用を図っている。



<肝炎等克服緊急対策研究推進事業>

推進事業

採択された研究課題を支援するため、次のような推進事業を行っています。

①外国人研究者招聘事業

課題が採択された主任研究者からの申請に基づき、当該分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招聘し、海外との研究協力を推進しています（招聘期間は2週間程度です）。

②外国への日本人研究者派遣事業

課題が採択された主任研究者からの推薦に基づき、国内の若手日本人研究者を外国の研究機関及び大学等に派遣し当該研究課題に関する研究を実施することにより、わが国における当該研究の推進を図る事業（派遣期間は6ヶ月程度）。派遣の選考にあたっては、習得技術が研究班にどのように還元されるかが評価されます。

③リサーチレジデント事業（若手研究者育成活用事業）

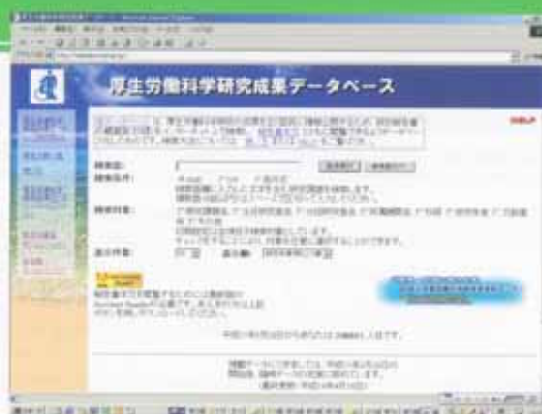
課題が採択された主任研究者からの申請に基づき、主任又は分担研究者の所属する研究機関に当該研究課題に関する研究に専念する若手研究者を一定期間（原則1年、最長3年まで延長）派遣し、当該研究の推進を図るとともに、将来のわが国の研究の中核となる人材を育成するための事業です。

その他に、研究成果発表会や、研究事業毎のパンフレット作成等を行っています。

研究成果の公表

研究報告書は、担当課（室）が保管するとともに、国立国会図書館、厚生労働省図書館、国立保健医療科学院の厚生労働科学研究成果データベースホームページで公開されます。
(<http://webabst.niph.go.jp/>)

研究課題、研究者名、研究成果（報告書本文等）を含み、検索も可能な厚生労働科学研究成果データベースを公開しております。ぜひ、ご活用下さい。



研究課題の公募・連絡先

研究課題の公募について

毎年度厚生労働省ホームページに掲載されます。<http://www.mhlw.go.jp/wp/kenkyu/index.html>

研究事業全体の総括的事項について

厚生労働省大臣官房厚生科学課研究助成係 03-5253-1111（内線 3809）

個別の研究事業について

3～4ページに示した研究事業所管課にお問い合わせ下さい。